



まちづくり

地域交通システムとして発足した「すずらん号」出発式

その成果を問う

この経常収支比率が高いほど臨時的に使用できる余剰財源が少なく、投資的な経費が少なくなることから財政の硬直化が進み、財政構造の弾力性を失いつつあると考えられています。

経常収支は常に余剰をもたなければなりません。歳入では、景気の影響などから前年より町税は2億3000万円の減額、また積立金を取崩しての

繰入金金は3700万円の減となったのに対し、地方交付税は2億8000万増の20億2000万円、地方債は9500万円増となる6億5000万円の歳入額となりました。総額では1億3000万円1.7%の減額となりました。

歳出では人件費3900万円、物件費1000万円、普通建設費2億800万円、公債費3億1000万円などの減となりましたが、一方、福祉関連の扶助費は4300万円、国県、また一部事務組合、各事業に対する補助費等は5億7000万円の増となりました。将来の財源の蓄えにあたる基金への積立金は2億7500万円増の3億4400万円となりましたが、経費の削減に努めながら高齢化社会・社会福祉の充実・大型事業を抱えてのものです。総額では1億3700万円1.8%の減額となりました。

特別会計決算

平成15年度一般会計

主要施策の事業

(単位：万円)

○商工業貸付金	1億8,000
○バス路線対策事業	3,589
○消防救助工作車購入	8,547
○南中学校水洗化工事	2,970
○乳幼児医療給付	1,312
○児童手当	4,144
○介護保険関連負担金	1億1,549
○情報化推進事業	3,908
○合併住民投票	429
○国民健康保険繰出金	1億782
○障害者等福祉支援関連	1億950
○道路改良・道路維持関連	2億3,841

国民健康保険

医療費10.1%増

歳入は前年対比4.5%、歳出は2.5%の増加となりました。被保険者は214人増の5995人。一人当りの保険料は5万9569円。医療費は10.1%増の17万765円となりました。

観光施設貸付

パノラマ資産を買取り

決算規模は14億5700万円ですが、歳入に占める地方債は12億5900万円、また貸付料としての財産収入は1億2100万円です。

平成14年度より町がパノラマスキー場の資産を買取り、その貸付料を町公社が町へ支払うというものです。国から借入れた借入金金は総額で28億8400万円となりました。